

四半期報告書

(第63期第3四半期)

自 2023年7月1日

至 2023年9月30日

日本フェンオール株式会社

東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	5
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7
2 役員の状況	7
第4 経理の状況	8
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
2 その他	17
第二部 提出会社の保証会社等の情報	18

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第63期第3四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	日本フェンオール株式会社
【英訳名】	Fenwal Controls of Japan, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中野 誉将
【本店の所在の場所】	東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
【電話番号】	(03)3237—3561（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部長 中島 昭
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
【電話番号】	(03)3237—3561（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部長 中島 昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第3四半期 連結累計期間	第63期 第3四半期 連結累計期間	第62期
会計期間	自 2022年1月1日 至 2022年9月30日	自 2023年1月1日 至 2023年9月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高 (千円)	8,505,998	9,083,684	12,401,100
経常利益 (千円)	728,888	801,277	1,479,017
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	202,862	46,529	826,571
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	217,465	342,780	760,758
純資産額 (千円)	11,769,595	12,262,077	12,312,816
総資産額 (千円)	18,593,756	19,091,232	18,813,328
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	36.24	8.30	147.62
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	63.3	64.2	65.4

回次	第62期 第3四半期 連結会計期間	第63期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純損失(△) (円)	△21.09	△41.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定において、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託口)が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数は当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

①経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限の緩和等により経済活動が正常化に向かうなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

しかしながら、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念、国際情勢に伴う資源価格の高騰、円安の進行など先行き不透明な状況が続きました。

このような環境の中、半導体市況の不服感によりサーマル部門を中心に受注高が減少したものの、消防ポンプ部門で出荷台数が大きく伸張したこと等により、売上高は前年同四半期比で増加いたしました。

なお、当社は2023年10月31日に「不具合の発生に伴う製品の自主回収について」を公表いたしておりますが、頻発している製品不具合に対する真因を究明するとともに、引き続き社内風土改革を柱とした再発防止への取り組みを推進しております。

以上の結果、受注高は9,383百万円(前年同四半期比6.1%減)、売上高は9,083百万円(前年同四半期比6.8%増)となりました。利益面におきましては、売上高の増加に伴う売上総利益の増加により営業利益が705百万円(前年同四半期比19.7%増)、経常利益は801百万円(前年同四半期比9.9%増)となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、製品改修関連損失引当金繰入額を特別損失に計上したことにより46百万円(前年同四半期比77.1%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

SSP (Safety Security Protection) 部門

当該部門におきましては、感知器をはじめとした機器販売が好調であり、売上高は増加いたしました。一方、受注高は改修・メンテナンス等は増加したものの、昨年不正問題の対応により営業活動が一部停滞したこと等により、減少いたしました。

以上の結果、受注高は4,177百万円(前年同四半期比0.8%減)、売上高は3,543百万円(前年同四半期比0.5%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、受注高は不具合対応により営業活動に一部制約があるものの、改修・メンテナンス等の好調もあり、ほぼ計画通りに推移するものと見込んでおります。

売上高は電力等基幹産業向けの警報工事の減少等が見込まれるものの、保守点検やリプレイス等の既存案件を確実に取り込み、収益の確保に努めてまいります。

開発の状況につきましては、中継器の後継機種の開発について型式を取得し、販売を開始いたしました。また、装置内部の環境や温度の異常を検出するための機器及び制御ユニットのリニューアル開発を継続しております。

サーマル部門

当該部門におきましては、半導体製造装置市場におけるメモリー及び先端ロジックを中心とする投資に落ち着きが見られ、主力製品である半導体製造装置向け熱板及びセンサーの受注高が減少いたしました。一方、売上高は概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、受注高は1,202百万円(前年同四半期比37.5%減)、売上高は1,941百万円(前年同四半期比25.6%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体製造装置市場における調整局面が続くものと見ておりますが、今後の更なる半導体製造装置市場の成長を見据え、引き続き生産体制の強化を図ってまいります。

開発の状況につきましては、熱板、サーモスイッチについて、特定顧客や市場ニーズに合わせた機能・性能の実現を目指した開発を継続しております。また、温度調節器につきましても、既存製品のリニューアルを進めております。

メディカル部門

当該部門におきましては、長期化していた新型コロナウイルス感染症の影響等から一部の国において徐々に透析装置需要が回復しており、主力製品である海外市場向け人工腎臓透析装置及び関連製品の受注高が増加いたしました。一方、国内市場向け人工腎臓透析装置の関連製品につきましては部品入手難及び原材料価格の高騰等により、供給に一部支障が出るなど売上高が減少いたしました。

以上の結果、受注高は1,118百万円(前年同四半期比30.2%増)、売上高は834百万円(前年同四半期比2.5%減)となりました。

今後の見通しにつきましては、主力製品である海外市場向け人工腎臓透析装置及び関連製品の出荷状況が徐々に好転するものと見込んでおります。

開発の状況につきましては、医療現場のニーズや利便性向上など、更なる機能改善に着手し、それを可能とするソフトウェアの開発や要素部品の開発を継続して進めております。

PWBA (Printed Wiring Board Assembly) 部門

当該部門におきましては、一部の電子部品の入手難による産業機器向け製品の減産や事務機器向け製品の在庫調整等の影響により、受注高、売上高ともに減少いたしました。

以上の結果、受注高は656百万円(前年同四半期比30.2%減)、売上高は689百万円(前年同四半期比26.5%減)となりました。

今後の見通しにつきましては、医療機器向けの需要は回復傾向にはあるものの、産業機器、事務機器向けは、客先における在庫調整等の影響により、厳しい状況が続くものと予想しております。

消防ポンプ部門

当該部門におきましては、総務省や地方自治体向けの消防車及び消防ポンプの販売台数が伸張したことで、国内向け売上高が増加いたしました。海外市場では中国・韓国向け消防ポンプの売上が引き続き堅調に推移いたしました。

以上の結果、受注高は2,228百万円(前年同四半期比8.2%増)、売上高は2,074百万円(前年同四半期比26.6%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、国内市場では、消防車のベースとなる車両納期が若干不透明な状況にはあるものの、艤装工場との連携を強化し、年内売上獲得に向け取り組んでまいります。海外市場では、韓国・台湾・ベトナム等の受注及び売上が堅調に推移すると予想しており、また、中国向け入札案件も増加傾向にあることから、今後は中国を中心とした受注活動の強化に注力してまいります。

開発の状況につきましては、空冷式消防ポンプのモデルチェンジが完了し、今後は水冷式消防ポンプのモデルチェンジの開発に注力してまいります。

②財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、19,091百万円となり、前連結会計年度末18,813百万円に比べ277百万円(1.5%)増加しております。主な増加要因は「現金及び預金」856百万円(13.6%)、「原材料」396百万円(25.7%)、「製品」292百万円(55.4%)であり、主な減少要因は「受取手形及び売掛金」665百万円(32.6%)、「完成工事未収入金及び契約資産」617百万円(35.0%)によるものであります。

負債合計は、6,829百万円となり、前連結会計年度末6,500百万円に比べ328百万円(5.1%)増加しております。主な増加要因は「製品改修関連損失引当金」334百万円(48.1%)によるものであります。

純資産合計は、12,262百万円となり、前連結会計年度末12,312百万円に比べ50百万円(0.4%)減少しております。主な減少要因は配当金の支払額396百万円によるものであり、主な増加要因は「その他有価証券評価差額金」178百万円(33.5%)、「為替換算調整勘定」109百万円(26.1%)によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、278百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,713,000
計	20,713,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,893,000	5,893,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	5,893,000	5,893,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	—	5,893,000	—	996,600	—	1,460,517

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 231,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,656,500	56,565	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 4,700	—	—
発行済株式総数	5,893,000	—	—
総株主の議決権	—	56,565	—

- (注) 1. 「単元未満株式」の「株式数（株）」の欄には、当社所有の自己株式22株が含まれております。
2. 「完全議決権株式（その他）」には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託口）が保有する当社株式53,700株（議決権の数537個）が含まれております。なお、当該議決権の数537個は、議決権不行使となっております。

② 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
日本フェンオール株式会社	東京都千代田区飯田橋 一丁目5番10号	231,800	—	231,800	3.93
合計	—	231,800	—	231,800	3.93

- (注) 「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託口）が保有する当社株式53,700株は、上記の自己株式等に含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,316,751	7,173,131
受取手形及び売掛金	※1 2,037,864	※1 1,372,687
電子記録債権	※1 1,219,146	※1 1,182,321
完成工事未収入金及び契約資産	1,766,471	1,148,765
有価証券	—	503,316
製品	527,609	819,825
仕掛品	425,536	391,851
原材料	1,543,158	1,939,741
その他	115,249	254,575
貸倒引当金	△3,899	△3,899
流動資産合計	13,947,889	14,782,315
固定資産		
有形固定資産	1,254,861	1,301,751
無形固定資産		
のれん	926,590	839,722
その他	168,924	168,206
無形固定資産合計	1,095,515	1,007,929
投資その他の資産		
投資有価証券	2,015,209	1,544,930
その他	822,600	474,955
貸倒引当金	△322,747	△20,650
投資その他の資産合計	2,515,062	1,999,236
固定資産合計	4,865,439	4,308,916
資産合計	18,813,328	19,091,232
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 1,841,883	※1 1,841,118
工事未払金	427,671	477,518
短期借入金	550,000	700,000
1年内返済予定の長期借入金	295,920	295,920
未払法人税等	206,922	70,224
賞与引当金	—	97,140
役員賞与引当金	—	12,348
製品保証引当金	119,972	218,308
その他	1,045,206	1,020,664
流動負債合計	4,487,576	4,733,242
固定負債		
長期借入金	936,220	714,280
役員株式給付引当金	7,124	5,834
退職給付に係る負債	330,053	305,963
資産除去債務	23,852	23,852
製品改修関連損失引当金	696,800	1,031,713
その他	18,883	14,269
固定負債合計	2,012,935	2,095,913
負債合計	6,500,512	6,829,155

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	996,600	996,600
資本剰余金	1,460,517	1,460,517
利益剰余金	9,340,161	8,990,408
自己株式	△416,416	△413,653
株主資本合計	11,380,862	11,033,871
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	531,606	709,839
為替換算調整勘定	418,441	527,781
退職給付に係る調整累計額	△18,093	△9,415
その他の包括利益累計額合計	931,954	1,228,205
純資産合計	12,312,816	12,262,077
負債純資産合計	18,813,328	19,091,232

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	8,505,998	9,083,684
売上原価	5,890,696	6,232,052
売上総利益	2,615,301	2,851,631
販売費及び一般管理費	2,025,463	2,145,825
営業利益	589,837	705,806
営業外収益		
受取利息	10,447	28,480
受取配当金	24,202	27,764
為替差益	89,721	28,889
その他	25,328	20,509
営業外収益合計	149,699	105,644
営業外費用		
支払利息	10,210	8,823
その他	438	1,351
営業外費用合計	10,648	10,174
経常利益	728,888	801,277
特別利益		
投資有価証券売却益	33,670	6,388
特別利益合計	33,670	6,388
特別損失		
製品改修関連損失引当金繰入額	※1 425,381	※1 692,235
特別損失合計	425,381	692,235
税金等調整前四半期純利益	337,177	115,429
法人税、住民税及び事業税	222,366	117,990
法人税等調整額	△88,052	△49,089
法人税等合計	134,314	68,900
四半期純利益	202,862	46,529
親会社株主に帰属する四半期純利益	202,862	46,529

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	202,862	46,529
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△275,129	178,232
為替換算調整勘定	290,831	109,340
退職給付に係る調整額	△1,098	8,678
その他の包括利益合計	14,602	296,251
四半期包括利益	217,465	342,780
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	217,465	342,780

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書における「(追加情報) 新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り」に記載した仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	82,844千円	36,442千円
電子記録債権	52,146千円	47,308千円
支払手形	140,092千円	106,884千円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 製品改修関連損失引当金繰入額

前第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

前連結会計年度に計上した製品改修関連損失引当金について、外注費等の追加費用が見込まれるため、現時点で合理的に見積り可能な見込額212,621千円を、第2四半期連結会計期間において特別損失として計上しております。

また、当社が製造、販売しております中継器において不具合が判明したことに伴い、当社は当該製品を全数回収、交換を行うこととし、回収交換費用として現時点で合理的に見積り可能な見込額212,760千円を、当第3四半期連結会計期間において特別損失として計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

当社が生産、販売しております感知器において不具合が発生したことに伴い、当社は当該製品の自主回収及び交換を行うこととし、回収交換費用として現時点で合理的に見積り可能な見込額246,591千円を、第2四半期連結会計期間において特別損失として計上しております。

また、前述の感知器とは異なる感知器において不具合が発生したことに伴い、当社は当該製品の自主回収を行うこととし、回収費用として現時点で合理的に見積り可能な見込額419,602千円を、当第3四半期連結会計期間において特別損失として計上しております。

なお、過去に計上した製品改修関連損失引当金について、外注費等の追加費用が見込まれるため、現時点で合理的に見積り可能な見込額26,041千円を、当第3四半期連結会計期間において特別損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
減価償却費	169,832千円	155,122千円
のれんの償却額	86,867千円	86,867千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年3月30日 定時株主総会	普通株式	379,302	67	2021年12月31日	2022年3月31日	利益剰余金

(注) 2022年3月30日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託口)が保有する当社株式に対する配当金4,308千円が含まれております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月30日 定時株主総会	普通株式	396,282	70	2022年12月31日	2023年3月31日	利益剰余金

(注) 2023年3月30日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託口)が保有する当社株式に対する配当金3,927千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	S S P 部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	消防ポンプ 部門	計		
売上高								
一時点で移転される財又はサービス	354,128	1,546,442	856,229	938,193	1,638,515	5,333,509	—	5,333,509
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	3,172,488	—	—	—	—	3,172,488	—	3,172,488
顧客との契約から生じる収益	3,526,616	1,546,442	856,229	938,193	1,638,515	8,505,998	—	8,505,998
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,526,616	1,546,442	856,229	938,193	1,638,515	8,505,998	—	8,505,998
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,526,616	1,546,442	856,229	938,193	1,638,515	8,505,998	—	8,505,998
セグメント利益又は損失(△)	498,122	370,299	39,882	134,413	△11,725	1,030,992	△441,154	589,837

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△441,154千円は、全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	S S P 部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	消防ポンプ 部門	計		
売上高								
一時点で移転される財又はサービス	550,663	1,941,581	834,860	689,110	2,074,583	6,090,801	—	6,090,801
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	2,992,883	—	—	—	—	2,992,883	—	2,992,883
顧客との契約から生じる収益	3,543,547	1,941,581	834,860	689,110	2,074,583	9,083,684	—	9,083,684
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,543,547	1,941,581	834,860	689,110	2,074,583	9,083,684	—	9,083,684
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,543,547	1,941,581	834,860	689,110	2,074,583	9,083,684	—	9,083,684
セグメント利益	547,269	405,013	76,747	80,352	83,551	1,192,934	△487,128	705,806

(注) 1 セグメント利益の調整額△487,128千円は、全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	36円24銭	8円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	202,862	46,529
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	202,862	46,529
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,597	5,606

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益の算定において、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カスタディ銀行(信託口)が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数は当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。(前第3四半期連結累計期間が63千株、当第3四半期連結累計期間が54千株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

日本フェンオール株式会社

取締役会 御中

監査法人 A & A パートナーズ

東京都中央区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮之原 大 輔

指定社員
業務執行社員 公認会計士 三 浦 英 樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本フェンオール株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本フェンオール株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。